

サーチライト With Pastor Jon 創世記 2 章 パート 3

このメッセージはアップルゲート クリスチャン フェローシップの、ジョン・コーソン牧師が公開したメッセージを、アメリカ在住の日本人クリスチャン木下言波が翻訳して YOUTUBE やブログに上げたものを文字化したものです。世界的なインターネット規制が始まろうとしています。私達はその日のために、文字にして紙に記録するのを感じました。また、インターネットに不慣れな方や字幕を追って読むのが困難な方のためにも必要があると主に迫られたと感じます。

※インターネットのメッセージを、文章化するこの働きを始めた姉妹が、現在目を患って治療中です。どうか、りよくさんの為にも、お祈りください。

「きょう、もし御声を聞くならば、あなたがたの心をかたくなにはならない。」ヘブル 4 : 7

メッセージ by ジョン・コーソン牧師 アップルゲート クリスチャン フェローシップ

<http://joncourson.com/>

7590 Highway 238 Jacksonville, OR 97530

訳 by 木下言波 DivineUS : <https://www.youtube.com/user/TheDivineUs>

筆記 by Rumi

夫たちよ。キリストが教会を愛し、教会のためにご自身をささげられたように、あなたがたも、自分の妻を愛しなさい。(エペソ 5:25)

妻を愛しなさい。どのように？ キリストがしたように。夫は命を捨てる。

「死ぬ !?」 そうです。

あなたの必要、欲望、夢、自分のこと、それらを手放し、犠牲にして献げて “死ぬ”。

それが、私たちのためにキリストがして下さったことだから。

イエスはゲッセマネの園で御父に訴えました。

「父よ。みこころならば、この (死の) 杯をわたしから取りのけてください。

しかし、わたしの願いではなく…」(ルカ 22:42)

そうして、イエスは献げ、明け渡して死にました。

男性の皆さん。聖書には、あなたはあなたの妻を愛し、私は私の妻を愛しなさい、と書いてあります。

まさにキリストが教会を愛したように。

彼は献げ、明け渡して死にました。何を？ 自分の願いを。

「父よ。みこころならば、この杯をわたしから取りのけてください。」(ルカ 22:42)

わたしはこの大きな苦しみ、困難を体験したくない。

「しかし、わたしの願いではなく…」(ルカ 22:42)

兄弟であり夫である男性たちは死ななければなりません。私も。

まさしく、キリストの心の近くの脇腹が開かれて私たちが出て来たように。

妻である女性の皆さん。エペソ 5 章は、あなたにもまたはっきりと言っています。

「夫たちよ。妻を愛しなさい。

そして妻たちよ。あなたは夫のそばにいないといけない。

夫のそばにいて、彼に従いなさい。

あなたは彼の脇腹から出て来たのだから、彼のそばにいる時に満たされるのです。

夫をリードしていくのではなく、また後に引き下がっているのでもなく、夫の横に立ち、彼のためにそばにいなさい。夫に従いなさい。」

とてもシンプルで、とても深い。

夫たちよ。自分の欲望を殺しなさい。執着するのをやめなさい。

「でも…これをやりたいんだ。これでなければ…」

友よ。手放しなさい。死になさい。

妻たちよ。夫の前を進むことも、後に下がることもいけません。

あなたは夫の脇腹から出たのだから、夫のそばにいて満たされ、喜びを得るのです。

これが原則中の原則です。

妻である皆さん。ここであなたが理解すべきことを、よくよく注意して聞いて下さい。

男の脇腹から取られたものの意図についてですが、あばら骨が取られたというのは、本当のあばら骨を意味するのではなく、“塊” のことです。

ヘブル語では“塊” を意味するのです。

男の脇腹にあったものが取られ、女に与えられました。

これが暗示していることは、とてつもなく大きなことです。

つまり、エデンの園での出来事以来、全ての男が失ったものが女に与えられている。

言い換えれば、奥さんたち、あなたの隣に座っている男性は、“ちょっと間が抜けている”

「それで分かった！」「ずっと不思議に思っていた！」でしょう？

アダムが失ったもの、それがエバに与えられ、それ故に女が男を完成させるのです。

彼が彼女の肩を抱いた時に、彼女と共に立っている時に、男は失ったものを取り戻し、そうして男は完成される。

“助け手” という言葉は“完成させる者” という意味です。

では、男が失ったもの、その脇腹から取られたものとは何でしょうか？

男と女を観察していると驚嘆しますよ。

1 年前に (1994 年当時)、タイム誌が特集記事として発表したのは、覚えている人、読んだ人もいないかもしれませんが、『今、明らかにされた大いなる新事実；心理学者たちは男と女が違うということを結論付けた』というものでした。

これを読んだ時、「もう、勘弁してよ」と思いました。

聖書に書いてある当然のことですよ。ビックリします。

私は解剖学的なことを言っているのではなく、男の本質は、女とは異なるということ言っているのです。心の近くのこの脇腹から男が失ったもの、この中から男が失くして、女に与えられたもの、それは繊細さ。女性は霊的に、神に対して素晴らしい感性を持っています。

女性は礼拝者で神を愛している。

我々男性は努力しないとできません。

女性から学びながら、大変な苦痛と多くの援助を受けながら、正常な状態を取り戻していくのです。

神に対する感性、人に対する、命に対する繊細さ、それは男から取り去られ、女に与えられました。

男も元々は持っていたのです。

しかし、神は、「彼が独りでいるのは良くない。これを彼から取って彼女に与えよう。彼女が彼を完成させるのだ。」と言いました。

だから教会に、礼拝や祈祷会に、女性はとても重要です。

女性は男性よりも容易に神を礼拝できます。

我々男性は本質的に、学ばないと礼拝しません。そうでないと絶対にできない。

だけど女性は一般的に、何倍も自由に神への情熱を表現します。

女性たちの神への飢え渴きは大変なもので、だからこそ、サタンはエバのところに来たのです。そして何と言いましたか？

「ポルノを見たい？」とは言いませんでした。

「ドラッグをやりたい？」とも、「すごい車を手に入れたんだ。乗らないか？」とも。

サタンは「もっとスピリチュアルになりたいか？」

「これを食べれば、もっと神に近づける。前よりも、もっと神のようになれる。」と言ったのです。

サタンはエバの、もっと神に近づきたい、神のようになりたい、という欲望に訴えた。

アダムは引っかけませんでした。

女性は、このような欲望や情熱を持っています。それが女性です。

それを我々男性は失くしてしまいました。

では、男性には何があるのでしょうか？

我々にあるのは、安定性と呼ばれるもの。

女性が一般的に持っているような高揚感や、ある意味、女性が天に対して持っている感性の故に気分が沈んだり、騙されたりするという事は、男性にはありません。

皆さん。男性と女性はお互いが必要です。

私はそのことを、何年も前に、ある所に招かれた時にはっきりと見ました。

それは、国際的な女性のカリスマグループの賛美と礼拝と祈りの集会で、私はその国際的な団体の、アドバイザーの責任を担う牧師として招かれ、素晴らしいと思ったので引き受けました。

幾つかの集会に出ましたが、最初の集会で、女性たちは涙を流し、祈り、心から神を礼拝していて大変祝福されました。

それで男性はというと、祈りの言葉ではなくて「あー…、えー…、神よ…」

女性たちは跪き、手を挙げて、祈り礼拝している。素晴らしい。この人たちは礼拝者だ。

そして私は立ち去りました。

余りにも理解し難いことだったから。

私の考えでは、私はそうなるべきではない。

そこで私は、だから男は女が必要で、女は男が必要なんだと思いました。

バランス。

女性はスポーツカー、男性は大きなトラックのようです。

女性は身軽で、興味のあることには、すぐに颯爽とハンドルを切って、それを得ようとしますが、男性は何となくブルブルン…という感じ。

だけど、私たちはお互いが必要なのです！

聖書はそのことを、とても明確に表しています。

私は何も、男性の集会、女性の集会を持つな、と言っているのではありませんよ。

男性の皆さん。私が言いたいのは、個々の人生に於いて体と同じように大切なことは、お互いが必要だということなのです。

妻である皆さん。聞いて下さい。

もしこれが理解できなければ、あなたは一生イライラから解放されないでしょう。

あなたの夫は、絶対に、あなたが求める男にはなりません。天国を除いては。

いや、彼も〈男は火星から、女は金星から来た〉セミナーに行つて、一生懸命頑張れば…

彼は火星から来たから、私たちの言葉を学びながらコースを受けて、セミナーに行つて、ビデオを見て、カウンセリングを、何回も何回も受けたなら…

ところがどうでしょう。

彼は絶対に変わらない。

努力はするでしょう。あなたから背中を押されて、ちょっとは進歩するかもしれません。

励ませば…。それでも…。彼は“少し抜けている”のです。

「ジョン！ 何てことを！ 次のセミナーで、彼が変わることを楽しみにしてたのに。」

夫は変わりません。

「アリガトウゴザイマス。とても役に立ちますね！」

「完璧な男はいないの!？」いいえ、います。何度でも言いますよ。「います!!」

“最後のアダム”

彼は、3番目もあり得ることを示唆する“2番目のアダム”とは呼ばれませんでした。

他にはもういない、という意味で“最後のアダム”です。

最後のアダム、彼には欠けたところがありません。

どうしてですか？

彼は、男と女が一緒になってあなたの夫が生まれたようには誕生しなかったから。

彼は、全く違うかたちで、処女から生まれました。

最初のアダムも、何も欠けたものはありませんでした。

しかし、彼からあるものが取り除かれ、それ以来、男は女によって完成されるようになったのです。

最後のアダム、イエス・キリストは全く別の方法で生まれ、彼だけが、奥さんたち、あなたの話を何時間も聞き、一緒に庭を歩いてくれます。

そう、あなたの夫も頑張ればできるかもしれません。

“フリ”はできるでしょう。

ですが、私たちが、男と女が、根本的に「やっと分かった!」「我々はお互いに違うんだということがやっと理解できた!」と言うその時、その時こそ素晴らしい!!

その違いについては、次回更に詳しく学びます。

というのも、この違いがもっと複雑になるから。ある問題、“罪”のために。

でも、今夜はこのことを理解して下さい。

妻のあなたが、「分かった! 私が求めているものは、最後のアダム、イエス・キリストの中に見つける!」と言うなら、夫があなたに与えることができないものを期待しなくなり、あなたは夫のプレッシャーを取り除くことができ、そうして、彼と楽しめるようになります。

男であろうと女であろうと、ですよ。

もし私が、自分に必要な強さや満足感を、キリスト・イエスから得ていなかったら、タミー（妻）を見て、私の必要を満たしてくれることを彼女に期待しても、彼女にはできません。彼女も完全ではないから。

しかし、私が主を見て主から得るなら、彼女にプレッシャーを与えることはなく、また、彼女が主を見て主から得るなら、彼女が私にプレッシャーをかけることはありません。

そのことによってのみ、私たちはこの結婚生活を心底楽しむことができるのです。

でも、「まったく、ウチの女房は!」「ほんっとに、ウチのダンナは!」「まったく、もお!!」と言うなら、互いの間に大きなプレッシャーが生じて、二人の関係は崩れていきます。

妻の皆さん。理解しましょう。

あなたの夫には欠けているものがあるのです。

だから彼に語りかけ、共に座り、寄り添って歩き、彼を知ること。

これが、あなたの存在には絶対に不可欠のことです。

それはいつでもできることで、予約は要りません。

ということで、アダムの脇腹からあばら骨が取られ、そして、男と女は両方とも不完全なものとなりました。

やがて理解することになるのですが、ここで興味深いことが起こります。

24 節、神はエデンの園で人類初の結婚式を執り行いながら、

それゆえ、男は（聞いて下さい。）**その父母を離れ、妻と結び合い、ふたりは一体となるのである。**

(創世記 2:24)

そのとき、人とその妻は、ふたりとも裸であったが、互いに恥ずかしいと思わなかった。(創世記 2:25)

興味深いですね。

ここ、よくよく注意して聞いて下さい。

「ジョン、言いたいことは分かる。夫は少しピントがずれている、というのはその通り。私もそう思う。」

それは事実です。

ところで、私たちが人生の中で一番求めている、最も必要なのは主ですね。

それなのに、夫婦として一緒にいることに、何か希望があるのでしょうか？ **Yes。**

私たちに希望がありますか？

裸のままでオープンな状態でも恥ずかしいと思わず、むしろ、二人が置かれている関係を互いに喜び合う希望が？ Yes。

まさにここに書いてあります。24 節の最後のフレーズ。

ふたりは一体となるのである。(創世記 2:24)

“ならなくてはならない”ではなく、“なるかもしれない”でもなく、“なれるだろう”でもない。

二人は、なる。二人は一体となる。一つになる。

一緒にいて、ありのまま、隠し立てのない、この素晴らしい開放。

互いに心から愛し合い、一つになる。

考えてみてください。

女は男の不完全さ、足りなさを理解することによって、本当の満足が与えられるのであり、逆もまた同じで、男も女の不完全さ、足りなさを理解することで本当の満足を得、同時に、その事実を認め続けていくことで、真実で最高の“一体”に必ずなることができ、そうなるのです。

その条件は二つ。

男はその父母を離れ、(そして) 妻と結び合い、(そして) ふたりは一体となるのである。(創世記 2:24)

真の一体になるために要求される条件は二つ。

他の全ての人から離れること。

そして、男と女がそれぞれ互いに結ばれること。

男はその父母を離れ

神がここで言っているのは、最も大切な関係のことで、「男よ、あなたは一番大切な人との関係、他の全ての関係から離れなければならない。そして、結び合うのです。」

他の全ての人から離れ、男女が互いに結び合う。

どうかしっかり聞いて下さい。もうすぐ終わりますから。

これは本当に重大で、重要なことだから。

男性たち。あなたは父母から離れなければなりません。

結婚という特別な日に与えられた関係の中に入り込んで来る、どんな関係からも離れなさい！ 離れなさい！

「何から離れるのか!？」

お父さんとお母さん、あなたが今まで悩みを打ち明けてきた人たち、夢を語り合った人たち、相談に乗ってもらった人たちから。

お父さんやお母さんから離れるだけなら、大抵の人にとっては、それほど問題はないでしょう。

しかし、男性の皆さん。

会社の人たち、あなたがストレスを吐き出し、打ち明け、夢を語り、色んなことを話してきた人たちとの関係、多くの場合、その人は女性です。

彼女を性の対象とは見ていないし、そんな気もない。

それでも、その人は、あなたにはないものを持っています。

それは、鋭い感性、繊細さ。

あなたが男性に悩みを相談したら、大抵は「何だ、成長しろよ!」「しっかりしろ!」

「ラケットボールでもしに行こうぜ！」なんて言われてしまいます。
しかし、職場の女性や教会の仲間である女性は、「まあ！ そうなの？…」「あなたの痛みが分かる…」と言うのです。

〈そうなんだよ。〉〈まあね。〉と、この時点では、あなたは彼女に惹かれてはいません。
ロマンチックなことは何もないでしょう。
性的な感情ありません。
この時はまだ…

つづく

封印のように、私をあなたの胸に、
封印のように、あなたの腕に押印してください。
愛は死のように強く、ねたみはよみのように激しいからです。
その炎は火の炎、すさまじい炎です。
大水もその愛を 消すことができません。
奔流もそれを押し流すことができません。
もし、人が愛を得ようとして 自分の財産をことごとく与えたなら、
その人はただの蔑みを受けるだけです。

(雅歌 8:6 - 7 新改訳 2017)